こんにちは

しもすわ町議会です

十二月定例会

VOL.26 令和2年1月24日発行

♥♥♥ ここに注目 ♥♥♥

SDGs先進地を視察……2P
スポーツ施設使用料見直し……5P
議会報告会……14～15P

「若者のサロンができたよ！」こども未来バス オープン

そこには未来都市 豊田市が見えた！

総務経済常任委員会 視察報告

水素燃料で走るバス

燃料電池車のエンジンルーム

総務経済常任委員会では、11月19日から21日の二泊三日で、愛知県の豊田市と三重県の志摩市を視察しました。先進的な取り組みをしている両市の施策を学び下諏訪町の「まちづくり」に役立てたいとの思いです。両市とも「SDGsを生かしたまちづくり」をしています。

エスディージーズ SDGsとは

SDGsとは Sustainable Development Goals の略称であり、持続可能な開発目標で〝2030年までに達成すべき17の目標〟です。2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。1の「貧困をなくそう」から17の「パートナーシップで目標を達成しよう」までの17目標があります。

豊田市 エコフルタウンに感動

まず豊田市をご紹介します。豊田市は人口42万6千人で、製造出荷額全国1位の工業都市です。平成の大合併により、愛知県全体の20％の面積があります。エコフルタウン（豊田市のSDGsの取組みをわかりやすく伝える情報発信拠点）には食材も建材も豊田市産100％のレストランがあります。

豊田市の取組み「ミライのフツー」をつくる先端技術「SDGs」未来都市トヨタ、モビリティ環境技術、地産地消また自然に親しみ森を生かす知恵などを学びました。モビリティ環境技術では水素燃料で走るバスや車「MIRAI」に触れることもできました。二酸化炭素が排出されず排出は水だけ。水素ステーションは水素工場も兼ねており、いつでも水素が取り入れられます。市内では、すでに燃料電池市街バスが走っています。

「豊田市つながる社会実証推進協議会」は、民・産・金・学・官の連携強化を図りながら直面する課題を効率よく解決できる社会システムの構築と新たなスマートシティの実現に尽力しています。

観光圏で躍動する志摩市

観光を学ぶ

志摩市は5つの町が合併した人口4万9千人の市です。志摩市観光振興計画によるインバウンドに対する対応、観光看板や観光企画の発信と民間活用の考え方などを学びました。

SDGsについては、地域創生推進本部を立ち上げる等5つの目標を優先させているとの説明を受けました。

すでに観光では伊勢志摩圏を構成する観光事業を推進しており、諏訪圏での取組みの必要性を感じました。下諏訪町に生かせる内容の視察だったと確信しています。

（副委員長　野沢　弘子）

志摩市議場にて

一目でわかる議決結果

	議　案　名（一部省略）	
同意	農業委員会委員の任命	
承認	【専決処分】一般会計補正予算（第５号）	
可決	会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定	→ 詳しくは４ページ1へ
可決	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備	→ 詳しくは４ページ2へ
可決	成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整備	→ 詳しくは４ページ3へ
可決	一般会計補正予算（第６号）	→ 詳しくは４ページ4、５ページ4・5・6へ
可決	一般職の職員の給与に関する条例の一部改正	
可決	特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部改正	
可決	議会議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正	
可決	一般会計補正予算（第７号）	→ 詳しくは４ページ5へ
可決	国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	
可決	後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）	
可決	下水道事業会計補正予算（第１号）	
可決	総合運動場条例の一部改正	
可決	体育館設置条例の一部改正	→ 詳しくは５ページ1・2・3へ
可決	屋内運動場条例の一部改正	
可決	災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正	→ 詳しくは５ページ7へ
可決	特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算（第３号）	

議会だよりモニターの目

わかり易かったよ もっと深みがあれば…

前号の議会だよりは、「全体的にすっきりまとまっていて、読みやすく、町政が身近なものに感じられるような内容表現ができている」との嬉しい感想も寄せられました。一方では専門的な用語がわからない、移動販売車「やしマルシェ」のアンケート調査内容が知りたいなど、もっと内容に深みがあればとの意見も多々ありました。

一般質問についても答えをもっと詳しくなどの意見もありました。基本的に一般質問は議員一人一人の責任で編集されています。全議員にその旨伝えます。

町の広報誌「クローズアップ」の内容とダブることなく町民の皆様に情報発信していくことは難しい側面があります。しかし、議会の立場を伝え、「町民の声に寄り添う議会」でありたいといつも思って編集しています。どんな事でも良いのでご意見をいただければ幸いです。

会計年度任用職員制度が新設

臨時雇用を厳格化

1 会計年度任用職員 給与・報酬等を明確に

会計年度任用職員とは、一の会計年度を超えない範囲で任用される職員であり、当町の非常勤職員等は原則として本制度へ移行されます。

2 地方自治法・地方公務員法改正に伴い町条例を整備

新たな条例となる「下諏訪町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例」の制定に伴い、関係条例となる13条例について整理・改廃を行います。個々の条例の対象から外れるものと、新たに加えられるものがあります。職の整理や、報酬等に係る文言の整理をしています。

3 「成年被後見人」の人権を尊重

成年後見人制度の「被後見人」が被後見人であることを理由に不当に差別されないよう、成年被後見人に係る欠格条項について関係条例の整備を行います。下諏訪町では、3つの条例が一部改正されます。

4 一般会計予算を補正

★ 一般寄附金49万円を賜りましたので、財政調整基金に積み立てます。

★ 台風19号の被災地へ簡易トイレ用凝固剤1800個分を支援したため、経費15万9千円分を町の備蓄として補充します。

★ ふるさとまちづくり寄附金が419万円あり、基金に積み立てます。

★ 商工業振興助成で1件の増加が見込まれ、35万円を追加します。

★ 新たな地域交流促進事業として、計画が進む駅前通りの空き店舗の改修に向け、263万円を補正します。

改修を待つ駅前通りの空き店舗

追加議案

5 人事院勧告に沿う

令和元年8月7日付の人事院勧告をうけ、国家公務員の一般職、特別職の給与に関する法律が一部改正され公布されたことに伴い、下諏訪町の一般職の職員、特別職の職員で常勤の者、議会の議員の給与・報酬・費用弁償等の3条例が一部改正されました。

一般会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、下水道会計の4会計での補正予算も可決されました。人事院勧告と、本年度中の人事異動等に伴う給与・手当等、人件費の補正です。

施設使用料が時間割へ

スポーツをしやすく

生活文教常任委員会

1 スポーツ施設 使用料を改正

スポーツ協会や利用者の声を聞き、1時間単位での使用料となります。施設の空き状況確認の仕方や申し込みは現状どおりです。

2 わかりやすい条例へ

今回の改正で「下諏訪体育館設置条例」を「下諏訪体育館条例」へ分かりやすく改正。無料貸出し品も増え、皆さんが利用しやすい体育館へ。

3 体育館の器具を使って！

体育館条例の改正に伴い、今まで有償となっていた体育館備品の多くが無償になります。今後買い替えに伴い、対応が変わることもあります。

4 資源物処理費を増額

ゴミ分別処理の意識向上や、金属類の月例収集の定着化が進み、処理量が増加したことにより増額補正するものです。金属類に関しては、収集量が増えたこと、処理を国外に依存しており、その国の輸入制限が影響し、処理料が大幅に増えました。

5 後期高齢者医療 医療費が増加傾向

後期高齢者医療の当初予算は、前年度の動向を見て算出されますが、実績により、必要な金額が県広域連合から請求されます。被保険者数は平成29年度4191人、平成30年度は143人増の4334人になっています。また、平成30年度は、入院に伴う費用が増大しました。平成29年度の医療費は県内11位でしたが、平成30年度は県内3位に上昇。非常事態であるとのことです。

6 快適な「こども未来バス」

町有バス廃車に伴い、有効利用のため、児童・生徒によりリノベーションされた「こども未来バス」が図書館前に設置されました。空調設備がないため、エアコン設置が決まりました。

「私たちがリノベーションしたよ！」

7 支給審査委員会を設置

災害時の弔慰金及び障がい見舞金の支給に対して、町長の諮問に応じて下諏訪町災害弔慰金等支給審査委員会を置くことができます。審査委員は、支給にあたり、自然災害との因果関係を審査する必要が生じたときに、医師、弁護士、その他町長が必要と認める者に委嘱されます。

私たちは問いかけ提案する

一般質問

12月定例会の一般質問は、代表質問を３グループが各150分以内、単独質問の３人が各60分以内で行いました。

６Ｐ～７Ｐ　令和会Ａ
代　　表　森　安夫
関連質問　樽川信仁
　　野沢弘子
「第７次総合計画の進捗は 」

８Ｐ～９Ｐ　令和会Ｂ
代　　表　中山　透
関連質問　中村光良
「令和の時代に相応しい英語教育は」

９Ｐ　大橋和子
「教育にもICTの活用を」

10Ｐ～11Ｐ　日本共産党
代　　表　金井敬子
関連質問　松井節夫
　　増沢昌明
「町民の生活支援を強化する予算を」

11Ｐ　林　元夫
「町のあるべき姿は」

12Ｐ　岩村清司
「区の再編成はできるか」

一般質問

＜グループ名＞
令和会Ａ

＜所属議員＞
森　　安　夫
樽　川　信　仁
野　沢　弘　子

Ｑ 第７次総合計画の進捗は

Ａ 計画に沿って順調に進んでいる

Ｑ 第７次総合計画の残された課題は。また来年度事業への反映は。

Ａ 順調に進んでいる。町長４期目の任期が残り１年なので、しっかり仕上げていきたい。

健康スポーツゾーン、車検場の改修活用等ハード面の整備とともに、赤砂崎の活用の方向づけ、未来基金のより良い活用などソフト面も充実させる１年にしたい。

Ｑ 来年度の予算規模は。

Ａ 検討中であり明確ではないが、例年並み予算。

Ｑ 来年度の新規事業は。

Ａ 継続事業をしっかり方向づけする。新たな計画は持っていないが、今までの延長上で生まれることはある。

Ｑ 残任期１年の思いは。

Ａ 住民満足度１００％を目指してきた。約束したことをきちんと実行する１年にしたい。

今年度内に完成予定の赤砂崎右岸公園

自転車活用推進は

Ｑ 「自転車活用推進法」が制定された。町や近隣の取り組みは。

一部供用開始された
諏訪市のサイクリングロード

A サイクリングロード整備を先行している。来年度艇庫前から岡谷市堺までの600メートル整備する。艇庫から諏訪市方面は来年度設計を行い令和5年度の完成を目指す。県は石船渡交差点から六斗川間の整備を進め、一部が供用された。岡谷市・諏訪市も同様にロード整備を開始する。

Q サイクリングステーションやサイクルオアシスなどを、誘致すべきでは。

A 当町は、湖畔すべてがサイクリングステーション等の候補地になり得る。県と協議を進めていく。

災害時に命を守る対策

Q 町民への災害時の危険度周知、出前講座等は。

A HP、広報誌、区長会、分団長会、自主防災会や区の会等でハザードマップの周知に努める。何よりもハザードマップを町民の皆様に見て欲しい。

Q 高齢者や耳の不自由な方の避難誘導等に、ピクトグラム（絵文字）の活用は。

A 避難所開設キットにピクトグラムの準備もある。

Q 交通事故防止に通学路の路面標示の維持管理を。

A 通学路合同点検、パトロールなどで随時対応。

Q 猪対策で、豚コレラワクチン町内散布状況は。

A 11月上旬までに、東山田、町有林17ヶ所に散布。国有林は林野庁が行った。

安心安全なまちづくり

Q 災害時に安全な建物への誘導は。

A 町内45ヶ所の町指定避難所のほか、収容規模が大きく耐震性のある5事業所と災害協定を提携し、有事の際に使えることになっている。追加や見直しを随時行う。地域と連携を取りながら対応する。

Q 町内会毎の災害訓練は。

A 地域の訓練は地域が自主的に計画し、行うことが前提。町は、自主防災組織等をバックアップする。

Q 豪雨時など緊急時は、サイレン・半鐘をもっと活用すべきでは。

A 火災時に使用するという認識が高いが、水防にも使用可能。見直し、周知が必要。使用時の安全管理など消防団とも協議が必要。

更新されたハザードマップは全戸配布されました

Q 町内小中学校の防火シャッター、防火扉の設置状況は。

A 4校合わせて89ヶ所ある。昨年度の防火設備定期調査で、是正措置を必要とする物が有り、修繕可能なものは年度内に予定する。

観光客ニーズへの対応

Q 一人旅や二人連れの旅人が増え、宿泊施設が不足している。気安く宿泊できる施設の対処策は。

A 既存の施設での対応が大事。古い旅館の形態を見直す等、民間の皆さんの取り組みを町は支援していく。

公共施設の活性化を

Q 町の「公共施設総合管理計画」では、公共施設や道路・上下水道などの改修に今後40年間で年18億円かかる試算。額を定め、改修予算が一定額に満たない場合は、公共施設整備基金に積立てるべき。

A 決算で剰余金が出れば、基金に積立てるが、予算措置はしない。

文化センターの改修は

Q 総合文化センター改修は、いつから実施するのか。

A 来年度基本設計、再来年度詳細設計、令和4年度に工事着手の計画。

諏訪湖博物館で特別展示を

Q 今井邦子文学館で、体験プログラムによる誘客を。

A 湯田町の協議会に管理をお願いしているが、高齢化が進み管理が難しいと聴く。町も地元住民の皆様が活用できるよう支援していく。

Q 諏訪湖博物館の雨漏り対策は。町所有の美術品等の特別展示で誘客を。

A 雨漏りは過去に修繕したが、解決していない。他の施設との兼ね合いを見ながら、中長期的視野での大規模な改修も必要。特別展示は、分館も含めて開催を検討したい。

活用が望まれる諏訪湖博物館・赤彦記念館

＜グループ名＞
令和会Ｂ

＜所属議員＞
中村光良
中山透
青木利子

Q 令和の時代に相応しい英語教育は

A オールイングリッシュの授業へ

Q 今後の英語教育は。

A 平成16年から英語特区教育を実施。新学習指導要領で、今までの「聞く・話す」に「読む・書く」がプラスされ、オールイングリッシュの授業になる。

Q Ｉターンでふるさとへ戻る教育は。

A ふるさと教育は総合的な授業や社会科で、温泉や相楽塚・和田嶺合戦などの町にある多くの教材に取り組んでいる。未来議会もある。また小学生が２年連続でふるさとＣＭ大賞に挑戦し連続で優秀賞を受賞した嬉しい活躍もあった。更に今年度は青木町長自身が出演し好評だった。

小学校の英語授業

中学校の現状

Q 下中と社中の文化祭が同日に開催されているが、別々の日にできないか。

A 諏訪地方の申し合わせで文化祭の開催日は統一されているが、両中学校間の交流はできている。

Q 小中学校の児童生徒の平均化の考えは。

A 子どもの数の平均化は難しい。通学路の安全確保や地域の理解が必要など、通学区の変更には課題が多い。

Q 小中一貫校を同一学校での実施に向けて、検討を始めて欲しいが。

A 少子高齢化などを見据えて検討の時期が来るかもしれないが、現時点では４校体制で連携していく。

高齢者の社会参画について

Q 「ぽけっと」の前年度の利用状況は。

A 16団体が登録し内13団体が毎月活動。知恵袋講座で「よもぎ餅をつくる講座」「繭玉作り」など。三角八丁でも世代を超えて交流。

Q 伏見屋邸の利用状況は。

A 平成30年度の開館日数は３０５日、活動人数はシルバーから委託契約の有志40人が登録し、常時２人で対応している。漬け物、干し柿づくりなどイベント時はボランティアを増員。

伏見屋邸で働く方々

Q 社協が無料職業紹介事業の許可を得て、高齢者の就業を奨励してはどうか。

A 今町社協で、ちょっと困っていることをお互い様の気持ちで支え合う「地域見守りネットワークご近所の輪事業」が始まっている。近所で買い物や雪かき、ゴミの運搬の手助けなど困っている人とお手伝いする人をマッチングし、30分３００円でサービスを提供している。

Q 高齢者パワーをどう活かすのか。

A 高齢者が地域で生きがいをもって生きることが大切と思い、子育て支援センター「ぽけっと」や「伏見屋邸」を作った。現在は65歳まで就労する時代になり、地域活動ができにくくなっている。ボランティアや民生委員等、地域活動ができる人を確保しにくくなってきていることが、大きな課題。

介護保険の現状

Q 65歳以上の高齢化率の傾向は。

A 平成29年度福祉計画では令和２年度は37・６％、令和７年度は38・３％。今後も高齢化は更に上昇し、高齢者数はここ数年がピークになり、その後減少が見込まれる。

Q 介護保険の今後については。

A 介護保険給付費が制度開始時は60億円だったが現

在は２００億円近くに伸びている。誰も予測できなかった。多様なサービスが充実してきたが、維持は自治体単独では難しいので広域連合になった。国の方針に対して、どうカバーしていくかが課題。

諏訪東理大公立化一年

Q　公立諏訪東京理科大学公立化一年目の決算状況は。

A　平成30年４月にスタート。収入が21億３千万円、支出が16億７千万円。繰越金が４億６千万円出たことで、校舎を増築する。

Q　公立化の効果は。

A　公立化により学生の負担が減少。全国から志願者数も増加した結果、優秀な学生が集まったことが効果。地域企業との連携が強化され財政が良くなった。

Q　独自の奨学金制度の創設は。

A　国の幼児教育の無償化に伴い、住民税非課税世帯の学生は授業料の半額が免除となる。質の高い大学が対象になるが理科大が対象の大学に指定されたことから、更に国の制度より拡大した奨学金制度を創設する。

公立諏訪東京理科大学

見守り隊の活動状況

Q　１区見守り隊が県次世代応援広報に掲載されたが。

A　報告を聞き嬉しく思う。掲載されたことは町の誇り。一方で負担になることが心配。無理なく努力していただきたい。

Q　学校と地域の連携は。

A　区長会を通じ各区で選出。子どもの声の放送は自主的に見守ろうという雰囲気が生まれている。

Q　新入学期に一年生の情報が欲しいという声を聞くが。

A　要望は聞いてない。個人情報の問題もあるので難しい。

長野県次世代応援広報

Q　教育にもICT活用で明日への準備を

A　将来に向けた可能性を拡大

大橋　和子

Q　プログラミング教育についての見解は。

A　人とコンピュータの違いを理解し、コンピュータを人が働かせるという経験を重要視。ＩＣＴを便利に使い、ＩＣＴモラルやセキュリティ感覚を持ち、子ども達の将来に向けた可能性を広げて行く。機器を便利に使い徐々に新しいものを取り入れ、子ども達の好奇心を大切にする。先生方には教育活動の中で、子ども達との時間を大切にしてほしい。軽井沢に来年開校する私立幼小中一貫校風越（かぜこし）学園も参考にする。

観光振興の推進を

Q　ユニバーサルツーリズム、インバウンド対策を。

A　トイレの洋式化やバリアフリー化を進めている。英語版の看板表記なども見直す。

Q　他市町村と連携したインバウンド対策は。

A　他市町村と協力しながら連携をしていきたい。

Q　旅館の再活性を図るべき。現状は。

A　事業者の高齢化や後継者不足で旅館数は減少。宿泊者数は山王閣の廃業以来減少。稼働率は21・９％。

Q　民泊の取り組みは。

A　町内には３件が登録されている。費用を抑えた宿泊や地域住民との交流などのメリットもある。既存旅館の活性化を優先的に進めていくことが必要。

Q　中山道にトイレ、休憩所の設置を。

A　春宮から和田峠には公衆トイレが無いが多額の費用が掛かる為、現在は困難。ベンチは、森林組合と相談しながら計画する。

各学校に配備されたタブレットと電子黒板

＜グループ名＞
日本共産党

＜所属議員＞
金井敬子
増沢昌明
松井節夫

Q 町民の生活支援を強化する来年度予算を

A 満足度100％を目指す姿勢は堅持する

Q 自分で足を持たない、買い物やお風呂に行くことに困難を感じている方は少なくない。社協の地域の支えあい事業として実施頂いている「ふれあい・にこにこ買い物バス」や、「湯めぐりバス」の増便を願いたいが。

A 運転手確保などの課題もあり、増便は考えていない。両方とも、まだ空きがある状況なので、より多くの方に利用いただけるよう、周知していく。

利用者の皆さんに大変好評な買い物バス

Q 災害時の緊急避難や仮設住宅となり得る物件も視野に入れた住宅対策が必要では。空き家の活用もあり得るのではないか。

A 建物の安全・ライフラインが確保できている空き家に関しては、所有者の理解が得られれば、検討したい。

Q 独居高齢者の居住スペースを廃止したまま現在に至る地域活動支援センター2階の活用方法の検討は、どう進められているのか。

A 10月1日、町の指定避難所に指定した。平時は障害福祉の場として活用できるよう、町内福祉事業者と意見交換している。

Q 地域産業活性化にも、安心安全のまちづくりにも繋がる事業として、減災設備・リフォーム補助事業を継続すべき。

A 3年毎に見直しを重ねてきた事業であり、ここで総括をし、来年度1年休む中で、今後の方向を出していく考え。

Q 妊婦さんが安心して出産を迎えるための支援として、福祉医療給付の対象者に妊産婦さんを加えてほしいが。

A 福祉医療給付事業は子どもの対象を18歳まで広げるなど充実させてきた。昨年度で言えば1億4千万円を町が負担しており、更なる拡充には慎重に対応せざるを得ない。妊産婦さんを加えることにより、800万～1千万円かかると試算。

Q 加齢によって起こる難聴に対して、補聴器購入の補助を検討願いたいが。

A 国の動向に注視しつつ、研究したい。

来年度の主な事業

Q 来年度主要事業は。

A 来年度3つのハード面整備①湖畔の健康スポーツゾーン構想の仕上げ②御田町・四ツ角のまちなみ環境整備事業③西大路交差点改良を含めたバイパス関連事業に取り組む。こども未来基金の活用など、ソフト面の充実も図る。

災害対策更なる強化を

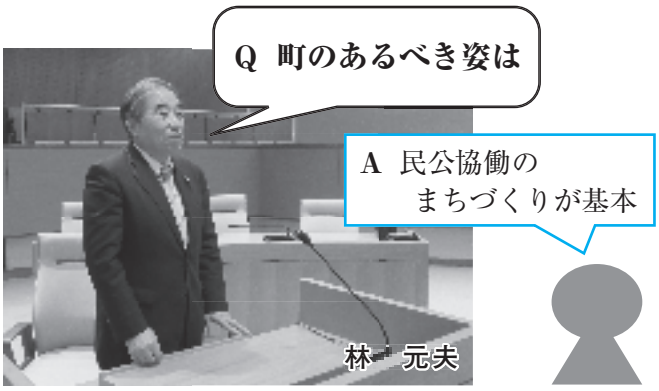
Q 町内民間事業所との協議により、避難所を増やしていただきたいが。

A 現在町内5事業所と、災害時緊急避難所の協定を締結。一時集合場所も24件民間施設をお借りできる事になっている。引き続き、調整していく。

Q 備蓄品として、簡易型テントを増やすべき。

A 現在、町ではプライベートルームを28個備蓄しているが、全国の災害の教訓から必要性については再認識しており、今後計画的に備蓄を進める。また、災害時大量に必要な場合は、支援物資として要請していきたい。

プライバシー保護、性被害防止等の観点からも大変期待される簡易テント



Q 災害対策として、河川整備も重要。砥川、承知川の流域対策の進捗状況は。

A 砥川右岸JR橋～福沢川合流部など現在工事中の箇所は、来年7月までに工事完了。福沢川合流部から医王渡橋はR2年度整備予定。承知川では11月初旬から県道から上流88m区間の護岸工事が開始されている。自然災害緊急事業推進費が付けば、令和2年度の予算と合わせて、田中線合流部まで工事が進む予定。

護岸工事が進む砥川
富士見橋下流右岸

Q 上流対策の計画は。

A 県は、「次年度から、事務レベルの話し合いを開始したい」としている。

Q 里山整備も、大切だが。

A 農業者の高齢化や鳥獣被害、機械化・集約化の困難さから、遊休農地が前年度より0・6ha増えている。できる限り支援していく。

教員の働き方見直しを

Q 安倍政権が導入しようとしている公立学校教員の「一年単位の変形労働時間制」に対し、現場からは、「勤務がもっと長くなる」と憤りや不安の声があがっている。教育長の見解は。

A その日の仕事は個々様々で、教員は各自のペースで調整している。現場に、この制度は「なじまない」と考える。

Q 教員の勤務実態は。

A 一週間の残業時間は、小学校で平均11時間、中学校で13時間。昼休みも含め、実質的な休憩時間は4校ともほぼナシ。土・日・祝日の出勤は、小学校で年に10～13日。中学校では、部活もあり小学校より多い。

Q 町の「教員の働き方改革」の取り組みは。

A 完全閉校日の設定、出退勤のアプリ活用、県から配置されているスクールサポートスタッフの活用等により、教員が子どもと向き合う時間を多くとれるよう、できる所から進めている。

子ども達の成長がなによりも教員の働く喜び

Q 整[illegible]、[illegible]規模は約77億円前後が身の丈予算では。

A その時々の国の施策などにより影響を受け、今の段階では明言できないが、町民益にかなった無理をしない予算で。

博物館は改修が必要

Q 公共施設の改修計画は。

A 総合文化センターは4年間位の計画で実施する。博物館は設計の伊東豊雄さんの事務所と協議が必要。抜本的な改修が必要な時期に来ている。博物館の活用については教育部門と切り離して部局の組織変換を検討しており、ソフト面での充実を図る。

Q 創造力チャレンジ事業で、申請のハードルを下げる考えは。

A 最近は大型で、地域を挙げての内容の濃い事業が続いている。個人で予算規模が少なくても公共性があれば申請して欲しい。

Q 住宅・建築物耐震改修促進事業で、耐震化率が県平均を下回っているが。

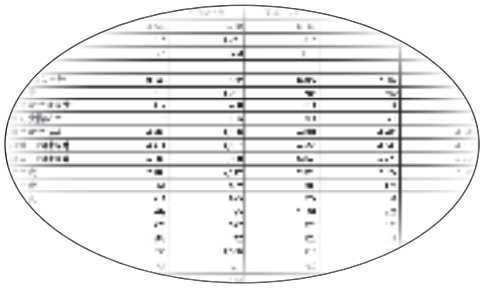
A 戸別訪問を行うなどにより、防災意識を持った人が増えていることも事実。高齢者でお金をかけて改修しない人もいる。耐震診断だけでもしてもらい一部屋だけでも耐震化してもらうよう努めている。

Q 国道20号バイパスのアクセス道路整備は。

A 大きな予算措置が必要。県等に要望していきたい。

Q 町のあるべき姿は。

A 町だけでは行政は出来ない。民公協働のまちづくりは、どんな時代になろうと変わらない。


使用した資料の一部

Q　3区においての区の再編成はできるか

A　区の自治組織の問題である

岩村清司

Q　3区の区民の方から分区する必要があるとの提案があった。

私なりに考えると、線路上571世帯・四王938世帯・赤砂清水町1049世帯・鷹野町462世帯と4分割することができる。実現できれば町全体としてもバランスの取れた世帯数になり、より良い区政が出来ると思うがどうか。

A　それぞれの自治組織があるので行政サイドがいろいろ言える立場にはない。それぞれの組織の中で検討すべきと考えている。

Q　区・町内会・班に加入していない人も、その地域でゴミを出したり、道路を使ったりして地域の中で生活しているし、何かどうか地域の人達にお世話になっている。行政側から加入促進をしなければいけないと思うがいかがか。

A　行政と区は違うため、自治組織である区に行政として加入促進は出来ない。転入時においては、加入のメリット等を知らせている。

地域のゴミステーション

合併について

Q　再度、商工会議所から「広域行政の更なる連携推進と早期広域行政合併の実現に向けて」の要望書が提出された。6市町村の合併に関して町長の見解を。

A　現状は住民の意識が低い。合併によってどの様なビジョンが描けるか、しっかり議論をしていかなければいけない。又、合併した所としなかった所の検証も必要だと思う。

議会もICT化を検討 時代に即したツールを導入へ

議会運営委員会
委員長　森　安夫

下諏訪町議会は議会改革を継続して促進中であり、さらに押し進め、議会運営の効率化、町民との連携強化のためにICT化は有効なツールと考えてきました。議会運営にかかわるICT化については、既に多くの市町村議会で導入され、充分に活用される段階にあります。これは、IT技術の進化により使い勝手が良く、比較的容易に導入できる環境が出来てきたことも背景にあります。

当委員会では5年前からタブレット導入などICT化を模索すべく、視察を重ねており、本年度もタブレット導入を始めた茅野市議会を訪れ、実際にタブレットを体験し、メリット・デメリットもお聞きしました。本会議場にタブレットを持ち込める諏訪市などの規則も研究してきました。

そんな中で、当議会も検討委員会を設置し、ICT化を進めることが必要だということになり、全員協議会において全会一致で決定するに至りました。年内に委員会を立ち上げ、当面タブレットの活用、ウェブサイトの充実などを中心に、令和2年9月までに方向を出す日程で、令和3年度から試行することを目標としています。

委員会メンバーは委員長中山透議員、副委員長に増沢昌明議員、委員は岩村清司議員、青木利子議員、野沢弘子議員です。さらにオブザーバーとして、宮坂徹議長、森安夫議会運営委員長、林元夫前議長が加わります。またアドバイザーとして、議会事務局河西事務局長に加え、専門的見地から総務課情報防災係にご協力を仰ぎます。

町村議会改革シンポジウムに参加

～今後の町村議会のあり方について学ぶ～

10月7日(月)に宮田村民会館にて行われた第5回町村議会改革シンポジウム長野inみやだに、当議会をはじめ、県下23町村議会、延べ280人が参加しました。

「議員のなり手不足」の現状を共有

「議員のなり手不足」は
全国各地で深刻な課題

第1部基調講演として、地方議会総合研究所代表取締役　廣瀬和彦氏が「今後の町村議会のあり方について」、80分お話されました。

廣瀬氏は、二元代表制における地方議会議員定数や報酬の分析から、「議員のなり手不足解消には、議員報酬の引き上げは必須。そのための住民合意の形成が大きな課題」と指摘しました。

他議会議員とグループワーク

第2部は、7人ずつ35組のグループに分かれてのグループワーク。「議員のなり手不足」「議会の広聴活動（説明会・報告会・意見交換会）」について60分間の情報交換を行いました。

「なるほど」と勉強になったり、「これは是非、自分たちの議会でも取り入れたい」と感じたこと等が多数。濃い時間でした。

《参考になった事例》

・飯綱町議会で取り組まれている「政策サポーター制度」は、議会を知ってもらうことで、議会の応援団になってくれる人をつくる。サポーターの中から、新たに議員になった人が、5人！また、県下一女性議員の比率が高く、67・3％

・飯島町議会では、住民に行政、議会や議員活動への関心を高めていただくように、住民懇談会や休日議会を実施している

・原村議会では、昨年7月から8月にかけて村内4ヶ所で議会改革をテーマに住民懇談会を開催。出された意見等を参考に、今後の取り組み方針を決定。本年5月からは、議会運営委員会が議会改革を担うことになり、重要性・緊急性の高い課題から検討を開始

第3部はまとめとして、月間「ガバナンス」編集長　千葉茂明氏と、第2部グループワークの代表議員3人による「情報交換を踏まえて」のパネルディスカッションが行われました。今後の町村議会の方向性を語り合いました。

情報交換を更に深めて

今回のシンポジウムでの情報交換の資料とするために、「議員のなり手不足」と「議会の広聴活動（説明会・報告会・意見交換会）」についての、アンケート調査が実施され、当日結果が公表されました。調査回答は、58町村のうち28町村で、回答率は47％。

○ 議員の平均年齢では最も若い原村議会は55歳。最も高い高山村議会は70歳

○ 議員報酬で最も少ないのは中川村議会で2６万４４００円／年。最も多いのは軽井沢町議会の４５８万９７５０円／年

○ 昨年実施した広聴活動（説明会・報告会・意見交換会）最多開催は阿智村議会の15回。2番目の7回開催が、下諏訪町議会と軽井沢町議会

物申すべき」
私たちのエネルギー

↘尚、議会報告会後、それぞれの分科会で出された意見は全議員で共有した他、分科会担当議員毎に取り扱いを検討し、12月定例会の一般質問に反映させるなどしました。

分科会①
「子育て支援について」

担当議員　青木　利子
中山　　透
中村　光良
松井　節夫

「子育てしやすい居住地」に下諏訪町が選ばれてほしい

・色々な地域から、下諏訪町を選んでもらうことが大切
・高齢者福祉も大切だが、子育て世代を大切にしなければ地方の将来は無いと思う
・町に生まれて育ったことを子ども達にしっかり認識してもらい、都会に出ていっても戻って来るようになったらいい

・親がこの町で食べていける姿を見せて、子どもに「この町でやっていけるんだ」と思えるようにしてほしい
・外国では子供が4人居ると、フルタイムと同じだけの補助金がもらえるので、どんな地域でも子どもが居る。そうなれば、いい
・町民ひとり一人が、町をPRできることが大切

町の子育て環境　どうなの？

・明るい子供、元気な子供遊び場のある町にしてほしい
・町内の学校への支援員の増員を考えてほしい。ひとり親家庭などの子どもたちの対応を充実してほしい
・町内小学校の交流が無い。下諏訪町内で子ども同士で顔がわからない状況は問題では
・集団登校がなくなっていることで、他学年との交流も少なくなっているのでは
・中学校は同じ日に文化祭を行っているが、両校の交流の機会がないので考えてほしい
・大学生が来ても遊び場がない。今後の課題にしてほしい
・老人パワーを活用して子育て支援に役立てられないか

分科会③
「防災（災害への備え）について」

担当議員　岩村　清司
金井　敬子
増沢　昌明
野沢　弘子

この分科会も、パネルディスカッション方式をとり、パネラーをお願いした、区長さん、「防災ネットワークしもすわ」メンバー、町危機管理室長から問題提起を受ける形で、意見交換しました。

災害時情報伝達に望まれること

・総合防災訓練時の情報のやり取りが、携帯電話。携帯電話が使えない最悪の場合を想定した町統一のルール作りが必要ではないか

↖

「まだまだ見えないぞ 町議会」「もっと積極的に町に

町の皆さんの意見が

下諏訪町議会では、11月１日(金)午後７時から、下諏訪総合文化センターにおいて議会報告会を開催しました。約30分の全体会で、議長あいさつ、議員自己紹介、２常任委員長報告を行った後に、３つの分科会に分かれ参加者の皆さんの町政や議会に対するご意見を頂きました。３つの分科会のテーマは、「子育て支援について」「産業振興(観光)について」「防災(災害への備え)について」。それぞれの分科会の様子や出されたご意見などを紹介します。↗

分科会②「産業振興(観光)について」

担当議員　林　元夫
　　森　安夫
　　樽川　信仁
　　大橋　和子

パネラーに、観光協会ボランティアガイドさん１人と、地域おこし協力隊３人を迎えて、それぞれの日頃の活動内容をお聞きしたのちに意見交換する、パネルディスカッションを行いました。

町の観光施策に感じる疑問

・街道歩きが平成になって増えているが、環境整備が追いついていない。道幅が30㎝の狭いところもあるし、トイレもない
・「下諏訪」を検索すると、観光の主体が町なのか観光協会なのかわからない。一本化するべき

移住と観光の両立

・ホシスメバや工房など個人での発信はしているが、町を通してのＰＲが不足
・マルシェ開催やものづくりをしている人をもっと知ってもらう仕組み、場所づくりが必要

取り組んでほしい施策

・若い人は、なかなか旅館に泊まらない。若い宿泊者を増やせられれば
・インスタグラムの活用で若い人にたくさん町に来てもらって、まち歩きを楽しんでもらいたい
・インバウンド対策(海外語表示)の不足を感じる。対応を望みたい
・まち歩きを増やすために、街角には必ず表示があるようにしたらどうか
・車椅子で歩けるように、段差をなくしたまちづくりを進めてほしい
・三角八丁を部外者の目線で歩いてみたらどうか

議会に対するご意見も

・議会も街道歩きの環境確認をしてほしい。
・一般質問のダブリが多い

・第６分団では、非常時に、車両だけでなく原付バイクを出して情報収集・発信に使うことを考えている
・情報伝達の手段・方法は各区に委ねられているが、的確な情報集約を
・第３区は範囲が広く30もの町内会が有るので、なかなか難しい

より実践的な訓練が必要！

・避難所についての情報を、もっと町民に知らせて
・各地区の防災計画は、それぞれの区内しか視野に入っておらず、「より近い」「より安全」な隣接区に避難してもよいはず。その視点での見直しが必要
・訓練時に、もっと町民の防災意識の向上をめざすべき。防災リュックやヘルメット等何も持たずに避難場所にただ行く訓練に、意味はない

議員に対するご意見も

・議員も、防災士の資格を取るべし
・災害時、議員も情報発信の仕方など、もっと考えてほしい
・年に一度の消防音楽隊の演奏会に、是非、参加を！

好きです しもすわ

「すっごくいいところ」

阿部 奈緒（ホシスメバ住）

下諏訪を初めて知ったのは「すっごくいいところだから行ってみて～！」と複数の友達から同時期に勧められ、旅行でマスヤゲストハウスに宿泊したのがきっかけでした。

ゲストハウスのスタッフさんや常連さんから諏訪エリアの様々な場所や過ごし方を教えてもらい、1度では足りず度々宿泊に来ていました。自分の街にもこんな場所があったら…と地元の友達におすすめをしちゃうくらい！

地元の人から聞いた居酒屋さんが良かったり、慈雲寺の苔に当たった日差しをただ眺めたり、「いかにも観光」とは違った旅行がとてもよかったです。

そんな滞在を経て、ホシスメバに住んで半年以上が経ち、日々、星ヶ丘からの美しい景色を眺めながら生活しています。たまに開催するお茶会では、毎回参加してくださる方もいらっしゃって、ちょっとずつ下諏訪で「暮らし」始めている実感が湧いてきました。ゆっくり下諏訪を楽しみ、下諏訪の人になっていけたらと思います。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

日本中が待ちに待った2020年東京オリンピックイヤーの開幕です。

世界中からアスリートをはじめたくさんの人々が日本を訪れてくれます。活気ある明るい一年になるよう祈っています。日本選手団の活躍で盛り上がると良いですね。

私達広報特別委員会も、改選後三回の定例会を経て、町民の皆さんとの距離を近くすることに務め、ワンチームで「議会だより」編集に、全力で取り組んで参ります。

（M・N）

広報特別委員会

委員長　金井敬子
副委員長　松井節夫
委員　中村光良
委員　樽川信仁
委員　林　元夫
委員　大橋和子

議長のつぶやき

新しい年を迎えて

議長　宮坂　徹

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は地震・台風等による自然災害が各所で発生し、甚大な被害をもたらしました。下諏訪町では8月19日の局所的豪雨により大雨警報・洪水警報が発令され、災害本部の立ち上げとともに高齢者等避難開始が発令され、議会でも災害対策支援本部を設置しました。この対応は、議会基本条例で危機管理を謳い、要領でその対応、議員の行動マニュアルで細部を決めており、条例制定後初めての実際行動で、訓練とは違う緊迫した状態での経験は、今後に繋がる課題と教訓を得ました。

こうした大規模自然災害は、全世界でも頻繁に起きています。何はともあれ「備えは万全に」越したことはありません。

今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。56年の年を経て、再び東京での開催です。当時私は中学2年生で、聖火ランナーの伴走者の一人として参加した思い出があります。同世代で思い出をお持ちの皆さんもいらっしゃると思います。昨年はラグビーはじめスポーツで大いに盛上がりました。オリンピック出場に向けて各種目で熱戦が繰り広げられています。夢に向かって真摯に立ち向かうアスリートの皆さんの姿は、私たちに勇気と元気を与えてくれます。

新しい年を迎えられ、夢と希望を持ち明るい良い年となりますよう、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年度の消防出初式

令和2年(2020)1月24日
編集／広報特別委員会　発行／下諏訪町議会
電話(0266)27－1111　FAX(0266)27－1237
下諏訪町　議会だより　で検索